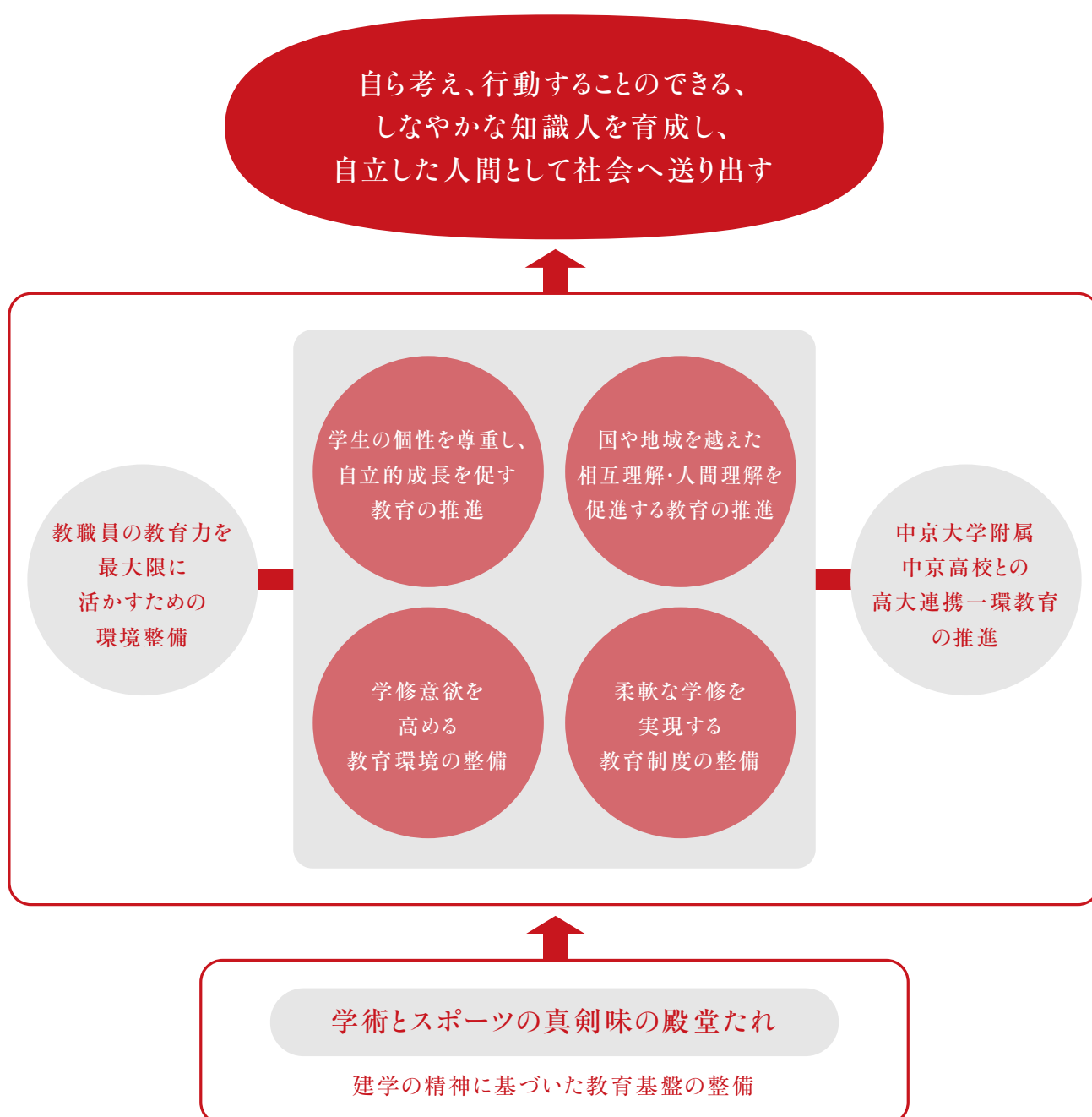


I 教育

「教育」の基本方針

今日我々は、従来型の社会が限界を迎え、明確なビジョンを描けないまま、価値観の多様化のみが進行する予測の難しい状況に直面しているといえよう。こうした状況に鑑み、本学は建学の精神「**学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ**」を基に、その四大綱「**ルールを守る、ベストを尽くす、チームワークをつくる、相手に敬意を持つ**」に立った「**中京大学の理念**」を基礎とする発展的教育を確立・推進する。また、教育目標として「**自ら考え、行動することのできる、しなやかな知識人を育成し、自立した人間として社会へ送り出す**」を掲げ、パラダイムの転換が求められる時代にふさわしい学生、社会が培ってきた良き伝統的文化を継承しつつ未来を切り拓ける学生の育成を以て、これに応えていく。



推進事項1

建学の精神に基づいた教育基盤の整備

建学の精神に謳われる四大綱は、時空を超えて、社会的存在としての人間の備えておくべき姿勢であるにもかかわらず、未だ教育の現場で十分に意識されているとは言い難い。学生がこの四大綱を理解し、身につけることは、飛躍的な向上をめざす本学の教育を支える強固な礎となり得る。

本学は、学生が授業・正課外活動を含めた大学生活全体を通じてその意義を体得し、能力を十分に発揮できる心身を備え、社会に巣立っていけるよう教育にあたる。そのために教員・職員・学生が一体となって取り組んでいく。

施策

- ① 自校教育の実施、学生生活全般を通じて規則・規範の遵守を促すことによる自律心の醸成
- ② 双方向型授業、グループ・協調学習や、正課外教育を通じての協調性の涵養
- ③ 成績評価基準の明確化、学位授与の厳格化による自律的学修姿勢の醸成
- ④ 学生と教職員との交流および学生間の交流の促進

推進事項2

学生の個性を尊重し、自立的成長を促す教育の推進

私立総合大学では、規模の大きさゆえに、マスプロ型、すなわち画一的な教育に陥る傾向がある。しかし、近年入試制度の多様化に伴い、さまざまな資質、目標を持った学生が入学しており、個々の学生に見合った教育をいかに実現できるかが問われている。

本学では、学生が自らの個性や、その必要性を認識して学び続ける姿勢を引き出すことを教育の基本姿勢とする。また、本学で培われてきた、アクティブで社会的適応力が高いという学生の伝統的資質を活かし、伸ばすことを重視した教育を行う。

施策

- ① 学生自らがプロフィールと学修活動、計画、成果を個別に inputs するシステム(学生ポートフォリオ)の導入
- ② 学修アドバイザー、担任制など、学生の資質・能力を活かした教育・指導体制の整備
- ③ 心身ともに安心・安全に教育を受けられる体制の保障
- ④ 思索の広さと深さを育む全人的教養教育を実施するなど教養教育の重視、21世紀型市民としての教養の充実
- ⑤ 高校生から真の大学生に、大学生から社会人になるための、初年次教育における大学論教育・卒業前教育の導入

I 教育

推進事項3

学修意欲を高める教育環境の整備

現状では、多くの学生がいかに効率的に卒業所要単位を揃えるかに執着しており、大学での4年間の学修を通じて自らの能力を伸ばすという本来の目的が見失われている感がある。

これを是正すべく、言葉上の警鐘にとどめることなく、学生が自ら問題意識や知的好奇心を持ち、個々の授業時間での「学習」の枠を超え、予習・復習をはじめとする自学自習も含めた能動的な「学修」に取り組むことが自然となるような教育環境を創造する。

施策

- ①学生の自発的な学びを促す制度・環境の整備
- ②教育効果向上に資する、学生と教員がともに学ぶ開かれた教育設備の実現
(「施設から教育」を考えるのではなく、「教育から施設」を考える)
- ③ゼミナール・卒業研究の重点化
- ④教員養成課程の整備と体制構築に基づく優れた教員の輩出

推進事項4

柔軟な学修を実現する教育制度の整備

現在の大学教育は、学修意欲の低い学生や成績の芳しくない学生に合わせた制度や内容に偏りがちである。すなわち、学修意欲の高い学生や成績優秀者に学修の自由度を与えるといった、積極的に学生の学びを支援する制度が十分でないという状況にある。

この現状を打破すべく、意欲のある学生にそれを活かすための柔軟な学修を保証する教育制度を充実させる改革を行う。

施策

- ①各学部における3つの方針(学位授与・教育課程編成・入学者受入)の明確化・実体化
- ② Semester化、時間割配置、教育施設、秋学期入学制度に対応可能な教育課程の整備など、教育を全学的に検討・改善する組織の構築
- ③教養教育(全学共通科目)と学部教育(学部固有科目)との連携を促進するための協議組織の設置
- ④学部変更、ダブル・ディグリー、4年を超える修学期間の保証など、柔軟で自由度の高い履修システムの構築
- ⑤山手通4大学間での教育上の連携強化

推進事項5

国や地域を越えた相互理解・人間理解を促進する教育の推進

グローバル化が叫ばれ、日本社会の多文化化・多言語化がみられる時代にあって、ことばや文化の壁を越えて活躍できる人間を育成することは大学の使命の一つである。その意味で海外留学を志す者が増えること、教育環境として外国人留学生が日本人学生とともに学ぶことは有益である。しかしながら、本学から海外に留学する学生、本学に留学してくる学生は増えてきているものの、体験だけに終わらない留学の「実質化」はどちらもまだ十分とは言えない。

留学の「実質化」を促進するためには、「会話」を越えた、より広い「対話」ができる力を育成することを目的とした日本語を含む言語教育全般の強化、自国文化・異文化理解教育の推進、海外および日本からの留学を実質化させる教育の保証が必要である。

施策

- ①外国語教育、日本語教育に国語教育を有機的に関連づけた「言語教育」理念の確立、言語教育体制の整備
- ②自国文化・異文化理解教育の強化
- ③母語に依存しない「対話力(コミュニケーション能力)」の伸長
- ④体験だけに終わらない留学の「実質化」の促進



I 教育

推進事項6

教職員の教育力を最大限に活かすための環境整備

現在の効率的な大学運営は維持しながらも、社会が求める高等教育の改革への期待や想定外のリスクに対し、組織的な対応力を十分発揮できるよう体制を整えておかなければならない。今後の入学者数の推移を考慮し、必要な人員を確保しつつ、過度に個々の教職員の努力に依らない組織的手段によって、教育の質を向上させる工夫を図っていく必要がある。

現在実施されているファカルティ・ディベロップメント(FD)、スタッフ・ディベロップメント(SD)活動にさらに能動的に取り組み、学生が質の高い知識とともに「自ら考え、行動できる、しなやかな知識人」にふさわしい自主性、柔軟な思考力を備えて巣立っていけるよう、本学ならではの教育内容・方法を構築していく。併せて、教育・学修情報の収集・分析などを通じて組織的教育力を向上させる取り組みも推進する。

また、教員の教育力の基礎は自らの専門分野における研鑽にあり、日々真摯に研究に取り組む姿は学生にとっても最良の教材ともなりうるであろう。そのため、教員の日常的な学びを授業に活かせるよう、環境を整備する。

施策

- ①FD活動への学生の参加を含めた、教員・職員・学生が一体となった教育改善の促進
- ②SD活動の一層の推進による、職員の専門性の向上と教職協働体制の構築
- ③教育推進センター(仮称)の設置などにより産学連携教育を円滑に実施し、教員の教育力を支援できる体制の確立
- ④教育効果を高める密度の高い教育を実現するための授業科目の再編・統廃合、設置科目総数の削減を含めた適正化
- ⑤教育研究施設改善による、学生への教育・研究指導機会の拡大(教員のオフィスだけの「研究棟」から学生と教員が集う「教育研究棟」へ)

推進事項7

中京大学附属中京高校との高大連携一貫教育の推進

本学は2009年度より、画一的な受験勉強にとらわれず、自ら将来を切り拓く学びを提供する高大連携プログラムを附属高校とスタートさせ、7年間一貫教育を実施してきている。

今後は、学園の建学の精神・教育理念を体し、本学の各学部学科においてリーダーシップを取れる人材を育成するために、両校教職員の密接な連携に基づいた7年間一貫教育プログラムをさらに充実させていく必要がある。

施策

- ①両校教職員による「議論の場」の常設など、教職員の密接な連携をさらに強化する体制の構築
- ②単位認定型先行授業の整備および充実
- ③学問的関心の涵養、問題発見・解決能力の育成、国際性・キャリア意識の喚起を促進する附属高校のカリキュラムおよび高大連携プログラムの両校教職員による共同開発
- ④各学部学科の学位授与方針に基づく推薦基準の見直し

